ICメルマガ（国際委員会メールマガジン）

ENTER25 eTourismカンファレンス開催報告

國學院大學　観光まちづくり学部
小林　裕和

The International Federation for Information Technology and Travel & Tourism (IFITT) の年次大会ENTER25 eTourism Conferenceは、今年で32回目を迎え、2025年2月18～21日にポーランド・ブロツワフ WSB MERITO University にて開催されました。IFITTは、観光とICTの統合を推進する国際的な学術・実務者コミュニティで、30年以上の歴史を持つ学会です。eTourism 分野に関する最先端の研究と実践の発展を目指し、ICTの観光産業への応用に関する知見を共有することを目指しています。

ENTER25のテーマは「eTourism towards 2060」。観光産業のデジタル技術活用に焦点を当て、特に、人工知能（AI）、スマートツーリズム、サステナビリティ、データサイエンス、メタバースなどのトピックが議題として扱われました。初日はPhDワークショップ、続く３日間が本会議で、基調講演、パネルディスカッション、ワークショップ、研究発表（20分）が行われました。セッションごとにスマートツーリズムやAIなどのテーマが設定され、発表やワークショップは数十人規模の教室で比較的小人数で行われ活発に議論が交わされていました。参加したワークショップでは、話題提供者3名が短いプレゼンテーションをした後に参加者同士がペアになってテーマに関する議論を行い、その後全員でシェアするシンク・ペア・シェア方式が取り入れられ、深い議論と共に研究者同士の親交を深めることができました。

セッション合間の休憩時間は30分、ランチタイム90分、また、ウェルカム・レセプション、カクテルパーティーを兼ねた優秀研究表彰式、ビール醸造所を改装したレストランでのカンファレンスパーティーなど、会議期間を通じてソーシャルプログラムや交流の時間が多くとられ、世界各国の研究者とのネットワーキングの機会となりました。

本大会には計14か国から215名が参加登録、学生ボランティアを含めて約250名が参加。国別内訳は、スペイン18%、ポーランド14%、英国10%、フィンランド8%、ドイツ・米国7%、日本3%などでした。投稿論文は2名の査読者による審査により受理が決定され、採択率は60%でした。日本からは研究者に加えて、観光庁の観光DX事業を推進する部署、日本各地で観光DXを推進支援するNTTコミュニケーションズからの参加も見られ、観光分野のデジタル活用推進における産官学の関心の高さが伺えました。次回大会は2026年1月27-30日、オランダ・ブレダにあるブレダ応用科学大学にて開催予定です。

パネルディスカッションの様子

一般発表の様子の様子

参加者集合写真

ブロツワフ旧市街